



真駒内で見つけよう。

SAPPORO LIFESTYLE SHOWCASE

広場にテラスが張り出す構図とすることで、視線とアクティビティが立体的に交わり、ショーケースとしての明示性と象徴広場としての祝祭感を演出する。建築物や外構には、地域素材である札幌軟石を多用し、地域性を表現する。

SAPPORO LIFESTYLE SHOWCASE — クラフト×ウェルネス×ガーデン×エネルギー が紡ぐ真駒内の未来 —

1 真駒内は南区の可能性"札幌ライフスタイル"を発信するショーケースへ

現状の課題と可能性
 ・人口減少や少子高齢化が進展、生活の維持が困難になる等、地域課題は深刻で先行が見えない。
 ・一方、後背には北海道らしい豊かな自然環境、芸術・文化、健康・癒しといった南区の地域資源があり、真駒内はその「入口」である。
 ・南区・真駒内は、真に豊かで人間的な生活（＝札幌ライフスタイル）が可能な地域なのである。

全体ゾーニング
 真駒内駅前地区を駅や緑との近接性から4つのゾーンに分け、それぞれ「クラフト」「ウェルネス」「ガーデン」「エネルギー」というショーケースとして計画する。

クラフト
 市民が自ら、創造的に作り、対話し、販売する営み。市立大(デザイン)や民間企業との協働・連携。

ウェルネス
 生涯を通じていきいきと学び続ける活動。市立大(看護)や定山溪観光企業との協働・連携。

ガーデン
 自然や農を楽しむ潤いのある暮らし。近郊農家や農業企業との協働・連携。

エネルギー
 地域資源を活用した省エネ・創エネ。市立大や民間企業との協働・連携。

コンセプト及びその設定理由
 コアゾーン
 ゾーンを横断する駅前地区を「コアゾーン」として、南区の魅力と活力を醸成・発信する場として重点的に再編する。

スマートグリッド
 ゾーンを横断したスマートグリッド形成。エネポータル・エネルギー・スマートワーク化。

2 真駒内駅前に南区の魅力と活力を醸成・発信する空間・機能を集約整備

街の骨格となる象徴的な空間整備
 機能配置
 各ゾーンを「要」となる教育・サービス機能とともに、駅前の構えをつくり市民活動の核となる公共空間を配置。

交通計画
 バスターミナル・駐車・駐輪場を集約し利便性を向上、歩行者も安心して歩けるよう歩車動線を明確に分離。

緑・水/エネルギー
 真駒内用水から引いた親水空間で真駒内の地名(アヲ語で「川」)を象徴する空間の形成。水路下の144m-パドック。

3 クラフト・ウェルネス・ガーデンをテーマとした住宅地のリノベーション

クラフト×UR賃貸住宅の改築クラフトマーケット団地
 自由時間が増えて、何かにやりたい人はたくさんいる。住民から湧き上がる文化創造の場を、元来「住む場」(暮らし)は自然一体となっていたに違いない。駅前の好立地にあるUR賃貸住宅に、市場機能と中間領域を取り入れ、新しいアクティビティを生み出す提案。

ウェルネス×分譲マンションの減築ゆとりレジデンス
 人口減少の進展により、居住者が少なくなったマンションを減築し、入居者同士の共有スペースとして、交流・癒し・福祉機能を導入することで、安心安全に暮らすことのできるコミュニティを形成する提案。

ガーデン×戸建住宅地の再編コモンガーデン住宅
 戸建住宅が多い「ガーデン」では、発生した空き地・空き家を活用して、居住者が共同で利用する菜園「コモンガーデン」を形成。南区の特産である野菜や果物の栽培を通して、食べられる「美しい」景観づくりを目指す提案。

エネルギー計画
 エネルギーの面的利用で環境負荷を低減
 エネルギーの面的利用による再生可能エネルギーの利用促進
 ・スマートグリッド整備や既存の地域冷暖房エリアの拡張など、エネルギーの面的利用を促進。真駒内用水路下に埋設する管路を通して、効率的な電気・熱の供給・融通を行う。
 ・再生可能エネルギーを積極的に利用することで、化石燃料利用の比重を極力、低減化する。

4 エネルギーの面的利用で環境負荷を低減

2010 2040 電気
 2010: 10.1 TWh
 2040: 13.3 TWh
 2010: 10.1 TWh
 2040: 7.7 TWh

熱
 2010: 10.1 TWh
 2040: 7.7 TWh

再生可能エネルギーをベースとし設備稼働率を上げて効率的に供給
 再生可能エネルギーの導入促進を、年間最大負荷の40%とすると、必要エネルギーの70%を賄える

5 "ことづくり"から始まる"まちづくり"

アイデアを実現化するプロセス
 ショーケースとなる真駒内の実現に向けては、3つのフェーズに分けて考える。行政・企業・大学・住民が将来ビジョンを共有した上で、協働の取り組みを進捗させ、実現化させる。

Phase I ~2024
 将来像の共有化・活動のスタートアップ
 ・旧小学校やミュージックスタジアム等の既存ストックを活用し、「ことづくり」の取り組みをスタート

Phase II ~2032
 活動の拠点となる場づくり
 ・真駒内中学校跡地(クラフト)は既存施設活用
 ・南区複合庁舎(バスターミナル)の整備
 ・アグリパーク・南区マーケット建設の整備

Phase III ~2040
 ショーケースの形成
 ・既存の中学校・庁舎・消防団
 ・南区インノベーションキャンパス、市民農園の整備
 ・レストラン・カフェオープン

2 コアゾーンの考え方

南区の核となる機能・プログラムの導入
 真駒内の中心となるコアゾーンには、南区の大学・関連企業・地域住民・関係機関等の協働のもと、クラフト・ウェルネス・ガーデンの核となる機能を導入するとともに、周辺ゾーンの住宅地を支える役割も果たす。

クラフト
 区役所・区長センター
 キャラリーライブラリ
 南区複合庁舎
 行政サービスの提供
 大学と民間企業が連携し、活かなる市民活動を集約・発信する拠点となる

ウェルネス
 札幌市立大・東海大
 プログラマー・健康器具企業
 龍(パノノ)カバ
 大学と民間企業が連携し、地域課題解決を通じて、研究・教育内容を社会化する

ガーデン
 藤野・南の沢・栗岩山
 オーガニック用品店
 レストラン・カフェ
 アグリパーク
 農産物の販売や農技の提供、市民農園、地産地消のレストラン・カフェを備える

3 札幌ライフスタイルを体感するシーンの連続

水と緑を感じる駅前の顔 [図中A]
多世代が交流する生涯学習の場 [図中B]
自然と暮らす環境共生の場 [図中C]

サッポロの地
 コアゾーンを一望できるデッキ広場

虹の地平
 来訪者を街へ誘う水と緑の駅前広場

夢の広場
 真駒内ライフ一望できるシンボル広場

恋のコーナー
 年代を超えた恋愛模様

いのちの森
 自然体験・環境教育の場

太陽の庭
 市民農園

真駒内を"オトナ化"する
 課題: 真駒内は子育て環境に重きが置かれて整備されたため大人がゆとりと過ごすことのできる場所が少なく、将来: B A R、趣味を嗜むLOUNGE等「夜の顔」が街に彩りを添える。

真駒内ランドバンクの主な3つの機能
 空き地・空き家の情報集約化
 コモンガーデンの管理運営
 空き家活用・リノベーション支援

住民ライフスタイル
 61歳 女性 元幼稚園の先生
 42歳 男性 木工作家
 数年前に独立し、一念発起して自分のアトリエを構えた。市立大と地元企業とコラボレーションし、札幌の木材を利用した、既製スタイルの家具を制作している

住民ライフスタイル
 61歳 女性 元幼稚園の先生
 42歳 男性 木工作家
 数年前に独立し、一念発起して自分のアトリエを構えた。市立大と地元企業とコラボレーションし、札幌の木材を利用した、既製スタイルの家具を制作している

住民ライフスタイル
 61歳 女性 元幼稚園の先生
 42歳 男性 木工作家
 数年前に独立し、一念発起して自分のアトリエを構えた。市立大と地元企業とコラボレーションし、札幌の木材を利用した、既製スタイルの家具を制作している